

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 新設組織の概要 ··· p. 2

①新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

②新設組織の特色

(2) 人材需要の社会的な動向等 ··· p. 2

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

③新設組織の主な学生募集地域

④既設組織の定員充足の状況

(3) 学生確保の見通し ··· p. 4

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

イ 新設組織における取組とその目標

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

イ 競合校の入学志願動向等

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

エ 学生等納付金等の金額設定の理由

③先行事例分析

④学生確保に関するアンケート調査

⑤人材需要に関するアンケート調査等

(4) 新設組織の定員設定の理由 ··· p. 10

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
二松学舎大学 文学研究科 歴史文化学専攻（M）	8	—	16	○九段キャンパス 東京都千代田区三番町 6-16

### ②新設組織の特色

歴史文化学専攻（修士課程）は、本学が創立以来蓄積してきた東アジア地域の研究を礎に、日本を中心とした東アジア諸地域及び西洋の諸現象の考究による歴史・文化・思想的知見を取り込むことで、日本を中心とした東アジア地域の歴史と文化の継承を担う高度な専門的学識を有する人材の養成を行うこととしている。

#### ・新設組織と関連する既設組織

歴史文化学専攻（修士課程）と近接する学問分野の教育研究を行う既設組織は、下表に示す大学院文学研究科・国文学専攻（博士前期課程）、中国学専攻（博士前期課程）である。同組織においては、歴史文化学専攻（修士課程）の設置に伴い両専攻とも令和8年度から入学定員を16名から12名に、収容定員を32名から24名に変更する。その他に学生募集停止、改組等は計画していない。

既設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
二松学舎大学 大学院文学研究科 国文学専攻（M）	16→12	—	32→24	○九段キャンパス 東京都千代田区三番町 6-16
二松学舎大学 大学院文学研究科 中国学専攻（M）	16→12	—	32→24	○九段キャンパス 東京都千代田区三番町 6-16

## (2) 人材需要の社会的な動向等

### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる文学部に対する過去3年間の企業からの求人件数は、令和4年度7,161件（同学部4年次在籍者数518名、以下同じ）、令和5年度8,866件（513名）、令和6年度9,692件（487名）であり、年々増加している状況である。この原因是、少子高齢化による生産年齢人口の継続的減少を背景とした労働人口の減少とそれに伴う人材不足と考えられる。また、このうち令和6年度の求人について、求人企業の本社がある地域を見てみると、上位10都道府県は、東京都（3502件）、大阪府（770件）、神奈川県（569件）、埼玉県（402件）、愛知（359件）、千葉県（329件）、兵庫県（246件）、福岡県（225件）、北海道（184件）、広島県（181件）と一部地域に限定されることなく全国的なものであった。のことから、歴史文化学専攻（修士課程）が養成する人材への需要も全国的なものであると考えている。

さらに、同専攻には教職課程を置き、中学校「社会」・高等学校「地歴」の教員専修免許状を取得できるようにする計画であることから、修了者の一定数が教職に就くことを想定している。教員採用をめぐる状況としては、文部科学省が毎年度実施している公立学校教員採用選考試験の実施状況の調査結果からも分かることおり近年教員採用選考の受験者数の減少傾向が続いている（令和5年度実施試験における受験者数は115,619人（前年度比-5,344人）、全体の採用倍率は3.2倍で過去最低）【資料1】。その対策として、文部科学省から各教育委員会に教員採用選考の早期化・複線化等の方向性が提示され、実際に多様な採用方式が展開され始めてきているが、受験者数増加を目指すその先にある目的は質の高い人材の確保である。多くの自治体で修士の学位と専修免許状の取得を条件に採用候補者名簿への登載を猶予する措置が取られていることからも、専門教科をより深く研究し、高度な専門的知識を持った人材が求められていることがうかがえる。

## ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

文部科学省の推計（高等教育の在り方に関する特別部会（第4回）配付資料「参考データ集」令和6年3月27日版【資料2】）によると、歴史文化学専攻（修士課程）設置初年度の受験対象者となる令和3年度18歳人口は全国で112万人である。以降徐々に減少し、同専攻設置10年目の受験対象者となる令和12年度18歳人口は104万と予測されており、減少率は7.1%である。

一方、同専攻では主な学生募集地域を東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の南関東地域に設定しているが、株式会社リクルート発行『リクルート進学総研マーケットリポート2022年5月号』【資料3】で同地域の18歳人口予測を見てみると、設置初年度の受験対象者となる令和3年度18歳人口は30万人、設置10年目となる令和12年度18歳人口は29万人であり、減少率は3.3%である。このことから、18歳人口の減少が同専攻の学生募集に与える影響はわずかであると考えている。

### ・新設組織が置かれる都道府県の定員充足等

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」における「地域別の動向（大学・学部別）」によると、歴史文化学専攻（修士課程）を設置する東京都の直近3年間の入学定員充足率は、令和5年度103.57%、令和6年度102.88%、令和7年度105.69%であり、安定した定員充足状況となっている。

また、同資料における「学部系統別の動向」で歴史文化学専攻（修士課程）と同系統の「人文科学系」の直近3年間の入学定員充足率は、令和5年度96.28%、令和6年度95.96%、令和7年度101.78%であり、安定した定員充足状況となっている。【資料4（別紙1）】

## ③新設組織の主な学生募集地域

歴史文化学専攻（修士課程）における主な学生募集地域は、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県を中心に設定している。同専攻の基礎となる学部である文学部においては、直近5年間の入学者で、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県に所在する高等学校を卒業した者の割合

は、入学者総数 2522 名に対して、東京都 28.8%、神奈川県 8.9%、千葉県 29.1%、埼玉県 12.8% であり、合計すると 79.7% となる。この傾向は今後も続く見込みと考えられるため、募集地域の設定は妥当であると考えている。

#### ・外国人留学生について

歴史文化学専攻（修士課程）では、同専攻で研究を希望する外国人留学生を受け入れるために外国人留学生入試を実施する。受験者の募集にあたっては、特定の国を対象とせず、主に日本国内での資料配布や、本学ホームページで海外に向けての発信を行う。

#### ・社会人について

歴史文化学専攻（修士課程）では、同専攻で研究を希望する社会人を受け入れるために社会人入試を実施する。同専攻の教育研究を実施する九段キャンパスは企業等の集中する東京都の中心的地区である千代田区に立地し、主な学生募集地域とする東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県からの通学もしやすい環境である。

### ④既設組織の定員充足の状況

歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる歴史文化学科を含む文学部の収容定員充足率は、「既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）」【資料 5（別紙 2-1）】のとおりであり、いずれも安定的に定員を確保できている。直近の充足状況が安定的であることから、今後の定員充足についてもこれを維持する見通しであると考えている。

## （3）学生確保の見通し

### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

#### ア. 既設組織における取組とその目標

歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる文学部歴史文化学科では、学生確保に向けて年間 6 回のオープンキャンパス開催、進学相談会や高校内ガイダンス等への参加、大学案内パンフレットの制作・配布、受験生向け特設サイトでの情報公開、受験媒体紙による広報宣伝活動など様々な取り組みを実施しており、2022 年度の開設以来、志願者・入学者数ともに堅調に維持している。【資料 4（別紙 2）】また大学院文学研究科の既設 2 専攻（国文学専攻・中国学専攻）では、学生の安定的確保のため学内進学者の増加が重要であると位置づけている。大学院進学意識の醸成や入試制度・各種支援制度の理解促進を目的として、ゼミ指導教員から学部生に対して大学院案内の配布や説明会への参加を積極的に呼びかけており、学内進学者対象の説明会を年 2 回（または 3 回）実施している。令和 7 年度募集において学内説明会に参加した者の総数は 29 名、内受験対象者は 15 名、入学者は 6 名であり、入学率は 40.0% であった。同様に令和 6 年度の入学率は 46.2% であった。【資料 6（別紙 3）】さらに在籍学生に向けた、キャリア形成支援や金銭面・研究指導支援制度の拡充にも力を入れ、大学院収容定員充足に向けた取り組みに力を入れている。

また本学学部生を含めた一般向けとしては、大学院ホームページによる情報提供や大学

院研究科紹介パンフレットの制作・配布、業者開催合同説明会への参加、大学院進学ポータルサイト参画等、情報提供を積極的に行っている。

既設 2 専攻における具体的な募集活動としては主に以下の施策を実施している。

#### (1)大学院研究科パンフレットの制作と配布

本学大学院では研究科毎にパンフレットを制作し、資料希望者へ無料で提供しているほかホームページにも掲載し、受験希望者への情報提供を積極的に行っている。大学院文学研究科パンフレットには研究科の全体概要、入学から学位取得までのプロセス、取得できる資格（教員専修免許状）の案内、研究サポート体制、教員一覧、担当科目、開講科目一覧、過去に提出された論文題目などを掲載している。

#### (2)ホームページ上での情報公開

大学院文学研究科ホームページ上では、既存 2 専攻の特長、3 つのポリシー、過年度修士論文題目および博士論文の要旨、在籍学生や修了生インタビューなどの他、最新の入試要項を公開し大学院進学希望者への情報提供を行っている。なお留学生確保のため、外国語版ホームページの拡充が今後の課題と捉えている。

#### (3)大学院進学説明会、学内向け進学説明会の開催

大学院文学研究科では、学内進学希望者を対象とした説明会を年間 2 回以上開催している。学外者向けには外部業者主催の合同大学院進学説明会に複数回参加しているほか、夏期オープンキャンパスでは大学院進学希望者を対象に個別相談も受け付けており、一般の進学希望者からの相談に応える体制を整えている。

#### (4)研究活動支援奨学制度の充実

大学院文学研究科では、有為な研究者育成に資することを目的とした研究活動支援奨学制度の充実に力を入れており、大学院文学研究科所属学生への研究活動支援奨学制度に関する取り扱い要領を定めている【資料 7】。現時点では「学会参加交通費支援」「画像・図版引用料支援」「論文掲載料・投稿料支援」「博士論文出版支援」を実施し、院生研究活動の支援を行っている。

#### (5) 大学院奨学金制度の整備

大学院文学研究科では、学業成績・人物共に優秀な学生に対し高度な研究に専心できる環境支援の一環として給付奨学金制度を設けている。支援 A 区分は博士前期課程と修士課程在籍者を対象に年間授業料の半額相当額を、支援 B 区分は博士後期課程在籍者を対象に年間授業料に相当する額を給付する制度で、いずれも各専攻 2 名以内を原則としている。

### イ. 新設組織における取組とその目標

歴史文化学専攻（修士課程）設置にあたっては、まず学内進学希望者への情報周知に力を入れ、基礎となる文学部歴史文化学科を含む文学部学生に対してゼミ指導教員を通してチラシを制作・配布し、積極的な情報提供を行っている。また7月上旬には同専攻の開設を告知するチラシを制作し、学部学生に配布している。さらに10月には同専攻のリーフレットを制作する予定である。広報展開に関して本学では、教学事務部入試課及び総務・人事部広報課が主体となって取り組んでいるが、今後もPR活動のルールを順守しつつ、大学ホームページや各広報媒体において積極的な情報提供を図り、学生募集に繋げていく。

届出書類提出後にはその旨を改めて学部学生へ周知するとともに、ホームページ等を活用して学外に向けたPRにも積極的に努める予定である。

#### ウ. 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

後述の「④学生確保に関するアンケート調査」の項にも記載しているが、歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる文学部の学生を対象に実施した進学意向に関するアンケート調査では、4年次生535名の内219名からの回答を得ているが（回答率40.9%）、歴史文化学専攻（修士課程）が開設された場合、第一志望として受験を希望する者は11名であった。

大学院文学研究科の既設2専攻（国文学専攻・中国学専攻）博士前期課程では、入学者に占める学内進学者の割合はおよそ40～50%である。アンケート調査結果からは、定員8名を上回る学内進学志願者数が予想され、初年度は告知期間が短いことから学外応募者が少ないと考慮しても学内進学者5名、学外者3名、合計8名以上の入学者を見込むことができると言える。また2年目以降についても、歴史文化学専攻（修士課程）の設置に係る情宣活動により入学定員は十分満たすことが見込まれる。

### ②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

#### ア. 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

##### （1）選定理由

競合校については、国学院大学大学院（文学研究科 史学専攻）、駒澤大学大学院（人文科学研究科 史学専攻）、専修大学大学院（文学研究科 歴史学専攻）、大正大学大学院（文学研究科 史学専攻）、東洋大学大学院（文学研究科 史学専攻）を選定している。なお、選定にあたっては次の観点から検討を行った。

##### ○【学校種の類似性】

競合校は私立大学大学院である。

##### ○【定員規模の類似性】

競合校の修士課程入学定員は次のとおりである。専修大学大学院・大正大学大学院・東洋大学大学院については、本学大学院歴史文化学専攻（修士課程）8名と同程度の定員である。駒澤大学大学院は本学の1.9倍、國學院大學は本学の5倍と定員規模はかなり大きいが、学門分野の類似性から競合校に選定した。

- ・国学院大学大学院（文学研究科 史学専攻）40名、駒澤大学大学院（人文科学研究科 史学専攻）15名、専修大学大学院（文学研究科 歴史学専攻）10名、

大正大学大学院（文学研究科 史学専攻）10名、東洋大学大学院（文学研究科 史学専攻）6名

○【学問分野の類似性】

競合校は、いずれも人文科学系大学院における史学分野の専攻である。

○【所在地の類似性】

競合校は東京都23区内に立地している。

○【学力層の類似性】

競合校の基礎となる学部について、河合塾が算出した令和7年度の偏差値は次のとおりであり、歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる文学部の偏差値が45～52.5であることから、学力層は類似していると考えている。

- ・国学院大学文学部 52～60、駒澤大学文学部 47.5～55、専修大学文学部 45～52.5、  
大正大学文学部 35～40、東洋大学文学部 47.5～57.5

## (2)競合校との比較分析

競合校の教育内容・入学試験・学納金や奨学制度等についての比較は【資料8】のとおりであり、競合校と同等の内容を整えていると考えている。また、歴史文化学専攻（修士課程）においては、日本をはじめとした東アジア地域の文学・文化に対する学問的蓄積が豊富な文学研究科の既設2専攻（国文学専攻・中国学専攻）の科目が履修できることから、複合的な視点を持つことによる学際的な研究も可能であり、その点は競合校に対して優位性があると考えている。

### イ. 競合校の入学志願動向等

競合校の過去3年間の入試結果について各大学に問い合わせた結果、回答のあった大学の状況は次のとおりである。令和5年度の大正大学大学院のみ定員を充足しているが、それ以外はすべて定員未充足の状況である。

研究科名	募集定員	入学試験実施年度											
		令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		志願	合格	入学	充足率	志願	合格	入学	充足率	志願	合格	入学	充足率
国学院大学大学院 文学研究科 史学専攻	40	51	35	30	75%	60	37	34	85%	52	38	38	95%
駒澤大学大学院 人文科学研究科 歴史学専攻	15	10	8	8	53%	12	9	7	47%	16	11	10	67%
専修大学大学院 文学研究科 歴史学専攻	10	8	8	8	80%	6	5	5	50%	14	9	8	80%
大正大学大学院 文学研究科 史学専攻	10	7	6	6	60%	17	14	14	140%	11	9	8	80%

#### ウ. 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

前項に記載の通り、競合校においてはほぼ全ての年度において定員未充足の状況である。しかし、歴史文化学専攻（修士課程）においては、後述の「④学生確保に関するアンケート調査」の項に記載のとおり、基礎となる文学部において募集定員を上回る人数の学生が同専攻進学への興味を示していることから、学内広報に特段に注力することで定員を確保できるものと考えている。また、入学試験においても授業料の半額相当の免除が受けられる奨学生入学試験を実施し、同専攻への進学意思がある学生が経済面での不安から進学を断念することがないよう、支援を実施する計画である。

#### エ. 学生等納付金等の金額設定の理由

学生等納付金については、本学の入件費及び教育研究や経常経費等の支出予測に基づき、既設の大学院文学研究科の金額と同一に設定している。また、競合校の学生等納付の金額は下表の通りで、本学の学生等納付金は競合校の平均額をやや上回るもの、大きな差はないと考えている。

研究科名	入学金	授業料	その他	計
二松学舎大学大学院（文学研究科）	250,000	520,000	100,000	870,000
東洋大学大学院（文学研究科）	270,000	450,000	90,000	810,000
大正大学大学院（文学研究科）	200,000	400,000	150,000	750,000
駒澤大学大学院（人文科学研究科）	250,000	540,000	210,000	1,000,000
専修大学大学院（文学研究科歴史学専攻）	200,000	470,000	160,000	830,000
国学院大学大学院（文学研究科）	100,000	505,000	110,000	715,000
備考：単位…円 いずれも他大学出身者を対象とした金額 諸会費などの代理徴収金は除く				

#### ③先行事例分析

該当なし

#### ④学生確保に関するアンケート調査

学生確保の見通しを数値的に検証することを目的として、基礎となる学部である文学部の3年次生及び4年次生を対象とした進学意向に関するアンケート調査を実施した。

アンケートの結果及び実際に使用したアンケート様式・アンケート対象者に示した歴史文化学専攻（修士課程）に関する資料（リーフレット）はいずれも【資料9】に記載しているが、同専攻が開設された場合、受験を希望するかどうかの設問に対して、「第一志望として受験する」「第2志望として受験する」「第3志望以降として受験する」のいずれかを選択し受験の意思を示した学生は、設置初年度に受験対象となる4年次生で24名、設置2年目に受験対象となる3年次生で28名であった。また、これらの学生に対して、同専攻を受験して合格

した場合に「入学する」又は「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と選択して入学の意思を示した学生は、4年次生で21名、3年次生で22名であった。この結果から、同専攻の入学定員8名は十分に確保できるものと考えている。

#### ◆クロス集計による分析について

卒業後の進路を「大学院進学」、志望する大学院の設置者を「私立」、興味がある学問分野を「文学」と回答した者で、同専攻が開設された場合は「第一志望として受験する」「第2志望として受験する」「第3志望以降として受験する」のいずれかに回答した者のうち、同専攻を受験して合格した場合「入学する」と回答した者をクロス集計した結果は、4年次生2名、3年次生0名であった。

ただし、同専攻は文学研究科内に設置を予定しているために学問分野を「文学」としているが、実際の学問分野はその名が示す通り「史学」の内容と不可分である。このため同じ条件で学問分野を「文学」と「史学」を含める形で変更し再計算してみると、4年次生では5名、3年次生では2名となった。これらの数字のみを見れば入学定員数8名には満たないところであるが、前段「④学生確保に関するアンケート調査」でのアンケート結果の分析の通り、第一志望以外でも「志望順位が上位の他の志望校が不合格だった場合に入学する」学生を含めれば4年次生で21名、3年次生で22名が入学の意思を示しているため、入学定員は十分に確保できるとの見通しに変更はない。

### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

#### ア. 一般企業等

歴史文化学専攻（修士課程）の基礎となる文学部に対する過去3年間の企業からの求人件数は、令和4年度8,866件（同学部4年次在籍者数518名、以下同じ）、令和5年度9,692件（513名）、令和6年度10,998件（487名）であり、卒業年次である4年次在籍者数に比べて多くの求人が寄せられており、一般企業からの人材需要は高いと考えている。このように多くの求人が寄せられる理由は、文学部の教育によって学生が身に着けた能力が評価された結果であると考えられるが、歴史文化学専攻（修士課程）においては、その教育を一段と推し進め、学生の能力のさらなる開発・発展を目指しているため、同様の人材需要があると考えている。

なお、文学部の進路決定率は令和4年度96.0%、令和5年度95.9%、令和6年度94.8%と非常に高い割合となっており、求人内容に対する文学部学生の志向も一致していると考えている。

#### イ. 教職

歴史文化学専攻（修士課程）には教職課程を置き、中学校「社会」・高等学校「地歴」の専修免許状が取得できるよう計画していることから、修了者の一定数が教職に就くことも想定している。同専攻の主な学生募集地域と想定している東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県における中学校「社会」・高等学校「地歴」の教員採用試験の過去3年間の結果は下表

のとおりであり、当該地域においては継続的・安定的な教員採用が行われ、教員人材の需要は高いと考えている。

		令和4		令和5		令和6	
		中学校 社会	高等学校 地歴	中学校 社会	高等学校 地歴	中学校 社会	高等学校 地歴
東京都 ※1	名簿登載者数		142名		179名		170名
	倍率		3.9倍		3.6倍		4.2倍
神奈川県 ※2	名簿登載者数	40名	52名	30名	55名	21名	54名
	倍率	5.1倍	5.2倍	7.0倍	5.5倍	8.9倍	4.2倍
千葉県 ※3	名簿登載者数		81名		131名		135名
	倍率		6.9倍		4.1倍		3.8倍
埼玉県	名簿登載者数	58	52	51	34	68	21
	倍率	6.4	3.2	7.6	5.2	5.0	6.5
※1…東京都は中学・高校共通募集 ※2…神奈川県の「地歴」欄には公民を含む。 ※3…千葉県は中学・高校共通募集。「地歴」欄には公民を含む。							

また、本学は教職課程センターを設置しており、配置された教職員は教職課程に特化した業務を行い、教職を志す学生に手厚いサポートを行っている（配置教職員は、令和7年5月現在で教員4名・職員4名）。この施策の効果として、本学学部生の教員採用試験の合格者（小学校及び中・高の全ての教科の合格者）は、過去3年間で、令和4年度29名、令和5年度53名、令和6年度44名と高い実績を得た。サポートは大学院生も対象であり、歴史文化学専攻の学生も同様のサポートを受けることができる。

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

歴史文化学専攻（修士課程）の定員設定については、基礎となる歴史文化学科の学生からのニーズや今後の定員充足見通し等を勘案し、競合校の動向調査や学生確保に関するアンケート調査及び人材需要に関するアンケート調査の結果を加味して設定したものであり、人材養成の目的や本学の教育キャパシティに照らして妥当性のあるものと考える。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

- 【資料 1】 教員採用試験概況（文部科学省：令和 6 年度（令和 5 年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイントから引用）
- 【資料 2】 日本の 18 歳人口の予測（文部科学省 高等教育の在り方に関する特別部会（第 4 回配付資料「参考データ集」令和 6 年 3 月 27 日版から引用）
- 【資料 3】 南関東地域における 18 歳人口の予測（リクルート進学総研 マーケットリポート 2022 年 5 月号から引用）
- 【資料 4】 新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況・新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況（別紙 1）
- 【資料 5】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2—1）
- 【資料 6】 学生募集のための P R 活動の実績（別紙 3）
- 【資料 7】 大学院文学研究科所属学生への研究活動支援奨学制度に関する取扱要領について
- 【資料 8】 競合校との比較
- 【資料 9】 進学需要に関するアンケート調査報告書

## 令和6年度(令和5年度実施)公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント

### 結果概要

文部科学省では、都道府県・指定都市教育委員会等(計68)が実施した公立学校教員採用選考試験の実施状況について、毎年度調査を実施している。このたび、令和5年度に実施された令和6年度採用選考の実施状況を取りまとめた。

#### ○全体の競争率(採用倍率)は、3.2倍(過去最低)で、前年度の3.4倍から低下

- 採用者総数は、36,421人で、前年度に比較して440人増加
- 受験者総数は、115,619人で、前年度に比較して5,344人減少
- 全体の競争率は25自治体で上昇、34自治体で低下

(注1)「全体」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

(注2)競争率(採用倍率)は、受験者数÷採用者数

#### ○試験区分別の競争率(採用倍率)、採用者数、受験者数

##### 【小学校】

競争率(採用倍率)は、2.2倍(過去最低)で、前年度の2.3倍から低下

- 採用者数は、16,793人で、前年度に比較して241人減少
- 受験者数は、36,259人で、前年度に比較して2,642人減少(うち 新卒 ▲369人、既卒 ▲2,273人)

##### 【中学校】

競争率(採用倍率)は、4.0倍(過去最低)で、前年度の4.3倍から低下

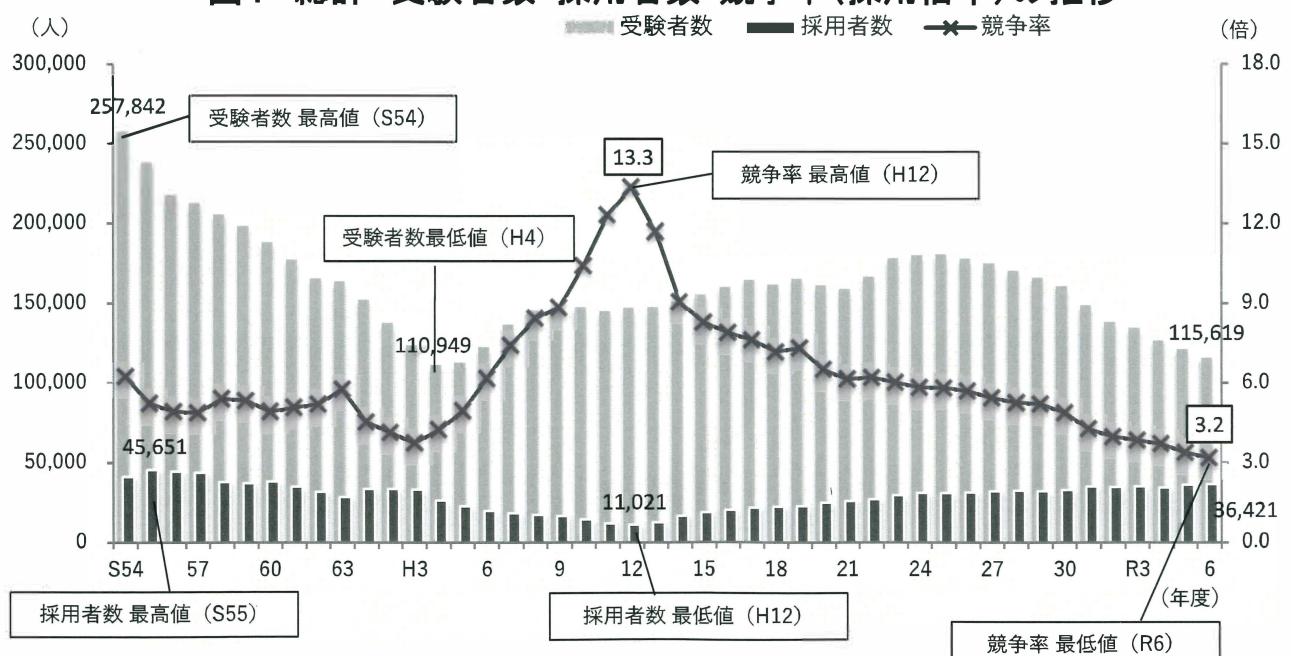
- 採用者数は、9,830人で、前年度に比較して241人増加
- 受験者数は、39,030人で、前年度に比較して1,930人減少(うち 新卒 +26人、既卒 ▲1,956人)

##### 【高等学校】

競争率(採用倍率)は、4.3倍(過去最低)で、前年度の4.9倍から低下

- 採用者数は、4,917人で、前年度に比較して318人増加
- 受験者数は、21,331人で、前年度に比較して1,129人減少(うち 新卒 ▲3人、既卒 ▲1,126人)

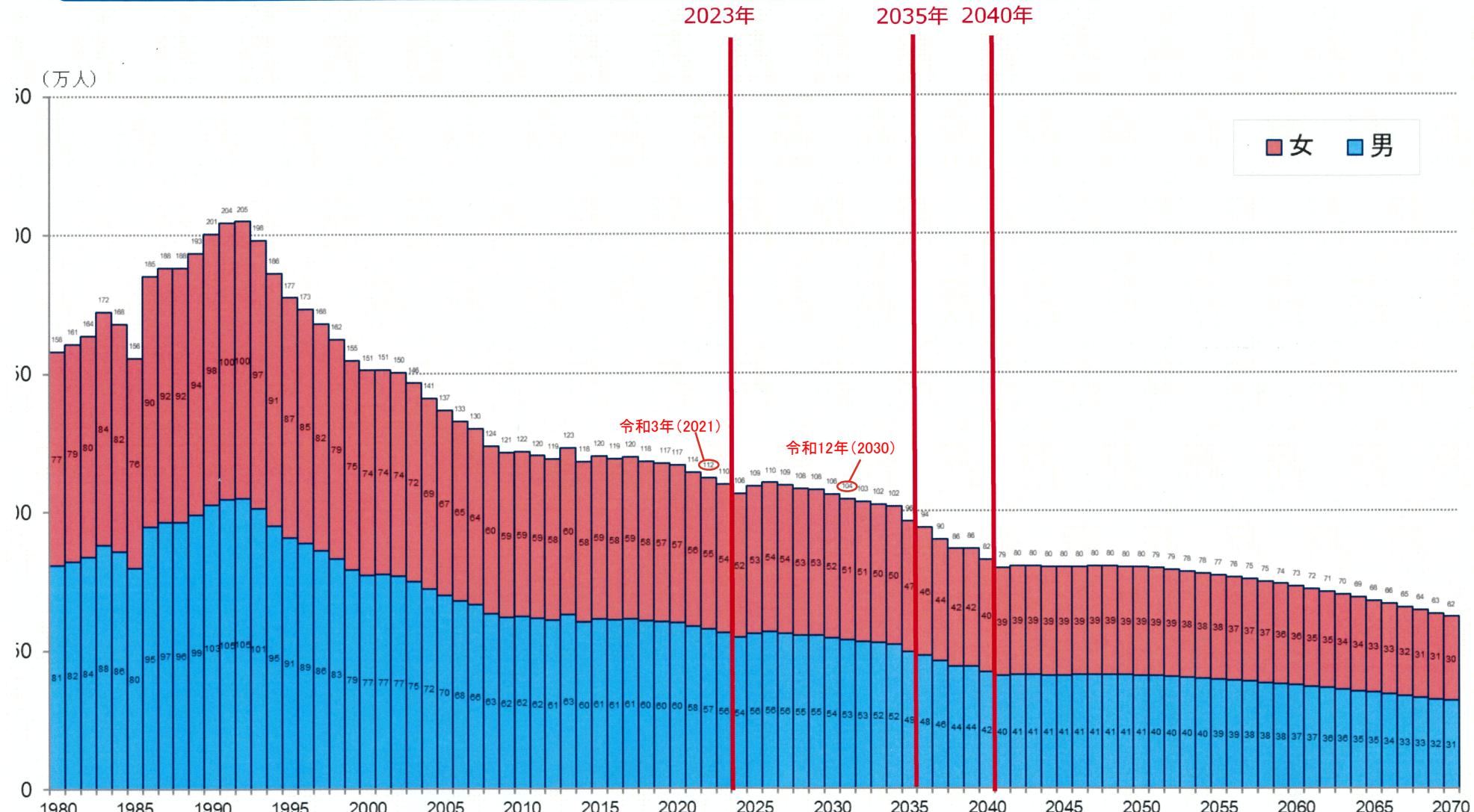
図1 総計 受験者数・採用者数・競争率(採用倍率)の推移



(注)「総計」は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

## 18歳人口(男女別)の将来推計

- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約110万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少するという推計もある。



(出典) 2022年以前は文部科学省「学校基本統計」、  
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成

# 18歳人口予測（全体：エリア別：2021～2033年）

■減少率が高いのは東北（2021年比79.5%）、減少数が大きいのは近畿（26,060人減）

減少率が高いのは、1位 東北（2021年比79.5%）、2位 甲信越（81.8%）、3位 北海道（82.2%）。

減少数が大きいのは、1位 近畿（26,060人減）、2位 東海（19,209人減）、3位 東北（16,459人減）。

減少率が低いのは、1位 南関東（96.2%）、2位 九州沖縄（94.4%）、3位 中国（88.3%）。

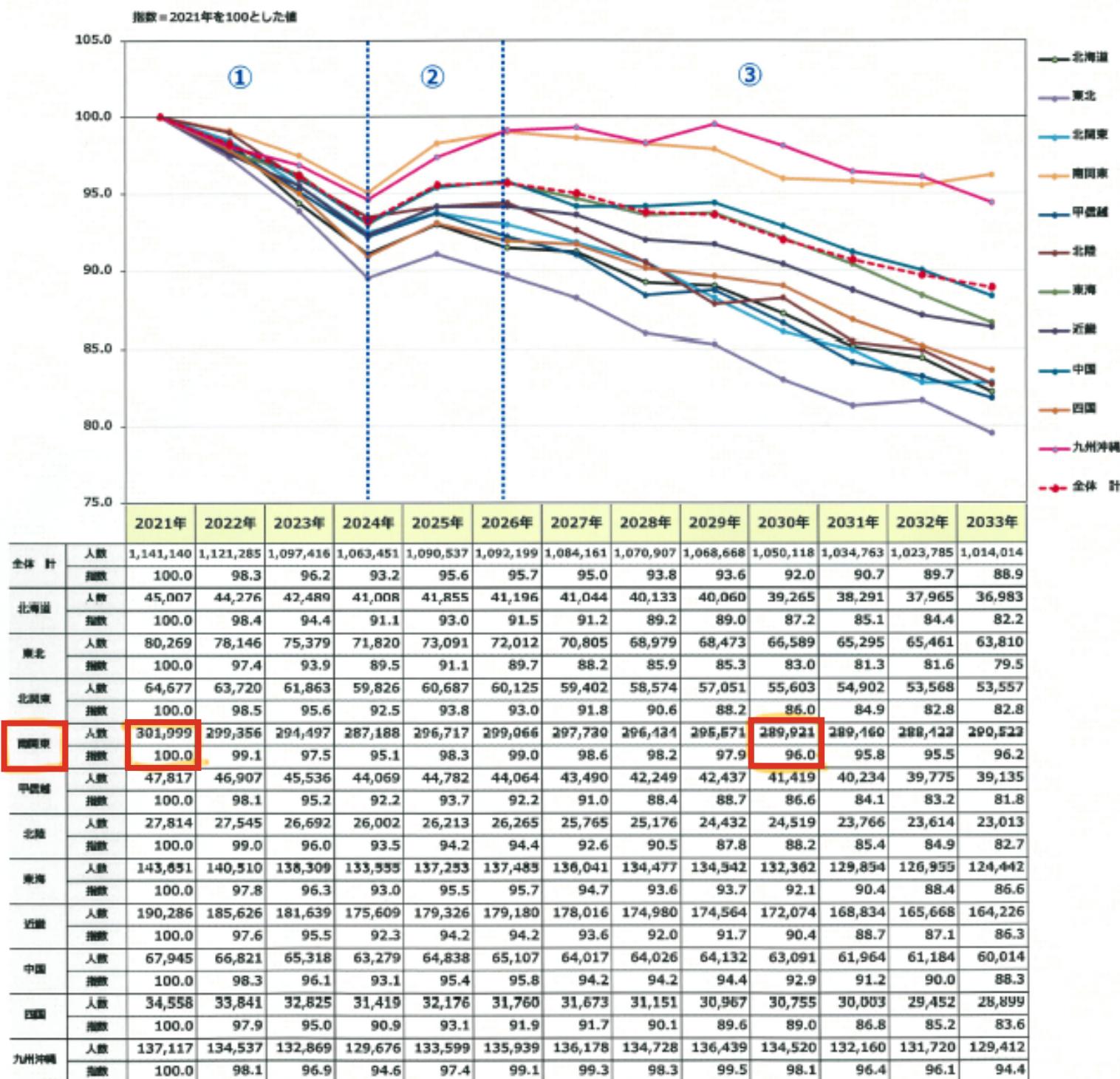
エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

① 2021～2024年：全国では約8万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期

② 2024～2026年：全国で約2.9万人増加、人口が回復する時期

③ 2026～2033年：回復後さらに減少する時期

注) 減少率 = 2033年人数 ÷ 2021年人数で算出。



\*データ元：文部科学省「学校基本調査」

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1			#DIV/0!
2			#DIV/0!
3			#DIV/0!
4			#DIV/0!
5			#DIV/0!
全 体			#DIV/0!

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

## ○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	東京都	103. 57%	102. 88%	105. 69%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

## ○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	人文科学系	96. 28%	95. 96%	101. 78%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

## 既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

大学学部学科等名：

(大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。)

## 1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数		12人	12人	14人	16人	14人
	延べ人数	志願者数	56人	69人	68人	88人	70人
		受験者数	56人	66人	68人	88人	70人
		合格者数	18人	26人	28人	31人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	43人	56人	56人	70人	56人
		受験者数	43人	55人	56人	70人	56人
		合格者数	18人	26人	28人	31人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		18人	26人	28人	31人	26人
学校推薦型選抜	募集人数		26人	23人	23人	22人	24人
	延べ人数	志願者数	24人	23人	20人	19人	22人
		受験者数	24人	23人	20人	19人	22人
		合格者数	24人	23人	19人	19人	21.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	24人	23人	20人	19人	21.5
		受験者数	24人	23人	20人	19人	21.5
		合格者数	0人	0人	19人	19人	9.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		24人	23人	19人	19人	21.25
一般選抜	募集人数		18人	21人	21人	20人	20
	延べ人数	志願者数	328人	331人	276人	279人	303.5
		受験者数	316人	316人	268人	269人	292.25
		合格者数	49人	76人	67人	49人	60.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	6人	2人	2.5
	実人数	志願者数	240人	235人	198人	185人	214.5
		受験者数	230人	225人	191人	177人	205.75
		合格者数	45人	67人	60人	38人	52.5
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	6人	2人	2.5
	入学者数		22人	25人	18人	17人	20.5
共通テスト利用入試	募集人数		4人	4人	2人	2人	3
	延べ人数	志願者数	119人	111人	90人	108人	107
		受験者数	119人	111人	90人	108人	107
		合格者数	25人	23人	21人	20人	22.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	2人	0人	1人	1.5
	実人数	志願者数	116人	109人	90人	106人	105.25
		受験者数	116人	109人	90人	106人	105.25
		合格者数	25人	23人	21人	20人	22.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	2人	0人	1人	1.5
	入学者数		3人	0人	3人	2人	2
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	1人	2人	4人	1人	2
		受験者数	0人	2人	4人	1人	1.75
		合格者数	0人	1人	4人	0人	1.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0.25
	実人数	志願者数	1人	2人	4人	1人	2
		受験者数	0人	2人	4人	1人	1.75
		合格者数	0人	1人	4人	0人	1.25
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0.25
	入学者数		0人	0人	4人	0人	1
合計	募集人数		60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	528人	536人	458人	495人	504人
		受験者数	515人	518人	450人	485人	492人
		合格者数	116人	149人	139人	119人	131人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	3人	6人	3人	4人
	実人数	志願者数	424人	425人	368人	381人	400人
		受験者数	413人	414人	361人	373人	390人
		合格者数	88人	117人	132人	108人	111人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	3人	6人	3人	4人
	入学者数		67人	74人	72人	69人	71人

## 3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員		60人	60人	60人	60人	60
入学定員充足率		1.12	1.23	1.20	1.15	1.18
歩留率		0.58	0.50	0.52	0.58	0.54

(備考) 特記事項がある場合は記載すること。

## 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称 :

文学研究科 学内進学希望者対象説明会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	16人	29人	①取組概要 文学研究科の進学希望者を対象とした学内説明会を、毎年度7月と12月に2回実施している。
うち受験対象者数(b)	13人	15人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析
うち受験者数(c)	7人	6人	本イベントに参加した受験対象者の半数近くが実際に大学院へ進学をしている。歴史文化専攻についての本格アナウンスは届出書類受理後となるが、すでに令和7年7月の説明会でも歴史文化学専攻に興味を持つ5名の学部学生が説明会に参加している。学内周知を徹底することで今後の実施回でも多くの学部生による説明会参加を促したい。なお本説明会には4年次生以外の参加もあるため、すべてが受験対象者となるわけではない。
うち入学者数(d)	6人	6人	
(受験率 c/b)	53.8%	40.0%	
(入学率 d/b)	46.2%	40.0%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称 :

文学研究科 資料請求者への入試要項・パンフレット配布

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	63人	14人	①取組概要 文学研究科入試要項とパンフレットを制作し、資料請求者へ無料配布している。
うち受験対象者数(b)	63人	14人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析
うち受験者数(c)	24人	8人	本学大学院では令和7年度入試からWeb出願を導入したことにより入試要項はWeb上から確認する形となり、出願前に要項を取り寄せる必要はなくなった。そのため令和7年度入試とその前年では数値傾向が異なっている点に注意が必要である。令和7年度の値では資料請求した者のうち57%が出願し、入学したものは28%である。入試要項の公開は届出受理後であるが、すでに寄せられている問い合わせ等の状況から、新設予定の歴史文化学専攻に対する興味関心度は高い。
うち入学者数(d)	7人	4人	
(受験率 c/b)	38.1%	57.1%	
(入学率 d/b)	11.1%	28.6%	

## 大学院文学研究科所属学生への研究活動支援奨学制度に関する取り扱い要領

### 1. 目的

本制度は、本学大学院文学研究科に所属する学生の研究活動に対して奨学金を支給し、有為な研究者育成に資することを目的とする。

### 2. 支援のための原資

支援のための原資は、当該年度に採択された特別事業費の「院生特別活動費」とする。

### 3. 対象

本制度の支援対象は、大学院文学研究科（博士前期課程・博士後期課程）に所属する正規の学生とする。

### 4. 支援内容

本制度における研究活動支援の種類は次のとおりとし、支援対象、支援金額、支給人数については別表のとおりとする。

- (1)学会参加交通費支援
- (2)論文掲載料・投稿料支援
- (3)画像・図版引用料支援
- (4)博士論文出版支援

### 5. (削除)

### 6. 申請手続き

本制度を利用して支援を受けようとする者は、所定の「研究活動支援申請書」を記載の上、その他別表に記載する必要書類を添えて所定の期限までに、教務課に申請しなければならない。

### 7. 選考

支援の可否を判定するため、必要に応じて、審査会を設置する。審査会は専攻主任会議とする。

### 8. 決定

支援の決定は、審査会の議を経て、原議書で教務課から起案し決裁を受けるものとする。

#### 附 則（平成28年10月18日）

この内規は、平成28年10月18日から施行する。

この内規は、2023年7月6日から施行する。

この内規は、2023年12月7日から施行する。

支援の種類	支援の対象	支援の内容	支援金額	申請方法等
学会参加 交通費支援	文学研究科博士前期課程および後期課程に在籍する正規の学生	全国規模の学会において発表することにより発生する交通費・宿泊費・参加費の一部または全部	1人につき当該年度1回に限り50,000円を上限として支給	<p>原則として発表を予定する学会の開催1か月前までに教務課に申請</p> <p>【必要書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動支援申請書</li> <li>・申請者が発表者であることを確認できる書類(学会プログラム等)</li> </ul> <p>※事後に本人名義の領収書等を提出しなければならない。</p>
論文掲載 料・投稿料 支援	文学研究科博士前期課程および後期課程に在籍する正規の学生	学会誌等に論文を投稿する費用及び当該論文の抜き刷り作成費用の一部または全部	1人につき当該年度1回に限り10,000円を上限として支給	<p>原則として論文を投稿する1か月前までに教務課に申請</p> <p>【必要書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動支援申請書</li> <li>・論文掲載料・投稿料及び抜き刷り作成にかかる費用が確認できる書類</li> </ul> <p>※事後に本人名義の領収書等を提出しなければならない。</p>
画像・図版 引用料支援	文学研究科博士前期課程および後期課程に在籍する正規の学生	論文に他人の著作による画像・図版を引用する際の費用の一部または全部	1人につき当該年度1回に限り10,000円を上限として支給	<p>原則として当該著作物を引用した論文を発表する1か月前までに教務課に申請</p> <p>【必要書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動支援申請書</li> <li>・画像・図版引用料にかかる費用が確認できる書類</li> </ul> <p>※事後に本人名義の領収書等を提出しなければならない。</p>
博士論文 出版支援	文学研究科博士後期課程を当該年度に修了見込の者または申請時ににおいて博士後期課程修了後5年以内の者	博士論文を書籍として出版する際の費用の一部または全部 申請年度又は申請の翌年度中に出版が確実であるものに限る。	1人につき1回に限り200,000円を上限として支給	<p>出版または出版予定年度の1月末までに教務課に申請</p> <p>【必要書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動支援申請書</li> <li>・完成原稿の写し</li> <li>・出版費の見積書または請求書</li> </ul> <p>※事後に本人名義の領収書等を提出しなければならない。</p> <p>※出版後に領収書および支援を受けて出版した図書1部を、教務課を通じて経理課に提出しなければならない。また別に2部を本学附属図書館に寄贈するものとする。</p> <p>※出版図書には支援金を受けて刊行したことを明記しなければならない。</p>

## 競合校との比較（各情報は各大学ホームページによる）

大学名	専攻名	教育内容と方法	受験期間	入学手続き締切日	学生納付金	奨学金制度	就職支援
1 二松学舎大学	文学研究科 歴史文化学専攻	学位授与の方針に掲げる能力、東アジア地域及び西洋の学術・文化の研究における専門的な知識と研究方法を修得させるため、各授業科目は研究対象の時代や領域に応じて体系的な専門教育が施されるよう「講義科目」「演習科目」で区分された選択科目群を編成する。また、東アジア地域及び西洋の学術・文化の研究における専門的な知識と理論とにに基づき、研究倫理に則った研究論文・修士論文が作成できるよう、「研究指導」を時間割に配当し、個別研究指導を行う。	【冬季試験】 2025年12月14日  【春季試験】 2026年2月20日～21日  ※翌年度以降は10月と2月に実施時期を変更予定	【冬季試験】 2026年1月9日  【春季試験】 2026年3月9日	870000円	・二松学舎大学大学院給付型奨学金 ・大学院外国人研究奨励生 ・学会参加交通費支援 ・論文掲載料・投稿料支援 ・画像・図版引用料支援 ・博士論文出版支援	【就職指導担当部署】 キャリアセンター、教職課程センター 【主な就職支援プログラム】 ・個別面談 ・求人情報掲示板 ・各種就職イベントの実施
2 東洋大学	文学研究科 史学専攻	(1) 教育課程の編成/教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は日本史・東洋史・西洋史の3コースから構成され、政治・経済・社会・文化の幅広い領域について総合的な理解力を養成する科目を配置し、少人数の講義・演習により、史料を丹念に検証して史実を分析する歴史学的な研究方法や、最新の研究動向をふまえた学問的な知見を教授する。研究指導は、最新の研究動向をふまえて自ら課題を設定し、歴史学的な研究方法に基づいて新たな知見が導けるよう、個々の研究課題に即してきめ細かく指導する。	【8月試験】 2025年8月30日  【2月試験】 2月14日	【8月試験】 ・第1次手続き 2025年9月16日 ・第2次手続き 2026年3月4日  【2月試験】 2026年3月4日	810000円	東洋大学大学院奨学金 大学院研究発表奨励金 特別被災奨学金 塙川正十郎奨学金 大学院先導の留学生スカラシップ入学試験	【就職指導担当部署】 就職・キャリア支援室 【主な就職支援プログラム】 ・個別面談 ・各種就職情報の提供 ・履歴書やエントリーシートなどの添削
3 大正大学	文学研究科 史学専攻	教育内容 ①研究上の問題意識を認識する力を強化し、それに基づいた研究遂行能力の向上を目指すために、少人数による史料論・特論・特殊研究・演習などの講座を有効に組み合わせた授業を設けます。②研究内容の重層性を深めるために、専攻内部での複数の研究発表を義務づけ、担当教員により学習達成度のチェックを行います。③研究を遂行する上で必要な研究倫理遵守に関する知識や方法を習得するため、各講座の中に研究倫理に関する時間を設けます。 教育方法 ①日本史、東洋史、文化財・考古学における研究の基礎材料となる史料・資料の探訪調査の方法、収集した史料・資料の解釈や史料批判などを的確に行うことができる十分な能力の獲得を目指し、担当教員による指導のほか、大学院生による調査発表、共同研究を積極的に行います。さらに史料・資料に基づく、独創的な研究方法を身につけることに留意します。②指導計画に基づいた研究指導体制を構築し、日本史、東洋史、文化財・考古学の史料・資料に裏付けられた専門知識を体系的に理解し、独創的な研究方法によって成果としてまとめあげる能力を充実させます。③前述の深い知識や能力を地域社会や教育の場に発揮できる方策の修得も目指します。	【大学院Ⅰ試験】 2025年10月25日 【大学院Ⅱ試験】 2026年2月1日	【大学院Ⅰ試験】 2025年11月12日 【大学院Ⅱ試験】 2026年2月18日	750000円	人材育成奨学金 大学院 大正大学研究者育成奨学金制度 大正大学授業料特別減免制度 チャレンジ支援奨学金	【就職指導担当部署】 キャリアセンター 【主な就職プログラム】 ①進路・職業の紹介 ②企業との連携、関係構築 ③就職に関する各種情報の提供 ④進路相談および進路指導 ⑤就活支援対策および資格取得講座の運営

大学名	専攻名	教育内容と方法	受験期間	入学手続き締切日	学生納付金	奨学金制度	就職支援
4 駒澤大学	人文科学研究科	<p>1. 教育内容            1) 講義科目は、広い領域にわたる学術研究の基礎を培い、社会の基本的要請、たとえば教育機関あるいは研究機関への要請に応え得るよう高度の能力を養うために開講する。            2) 演習科目は、本専攻の伝統的実証史学の追究を指導し、広い視野に立ちながら多様な史資料を駆使した修士論文作成のための研究能力養成の指導を行う。            3) その他、課外授業（実習）として日本史学コースでは古文書調査・整理、考古学コースでは国内外で発掘調査を行い、より実践的な技能・能力の修得を目指す。            4) 1～3の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査および最終試験を実施する。</p> <p>2. 教育方法            1) 講義科目では、史料批判・解釈・操作等の基礎的な研究手法や研究能力を体得させるため、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。            2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成においては、学界の研究動向を考慮しながら、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら指導する。            3) 課外授業（実習）においては、調査・実践の計画の立案、報告書の作成、事後の検証について、指導を行う。            4) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。</p> <p>5) 修士論文の審査にあたっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。</p> <p>6) 研究倫理教育は、専攻に扱らない一般的な内容については、eラーニングなどの方法を用いて広く提供し、歴史学分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。</p> <p>7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。</p>	<p>【9月試験】            2025年9月27日～28日</p> <p>【2月試験】            2026年2月21日～22日</p>	<p>【9月試験】            2025年10月16日            2026年3月6日            2026年3月31日</p> <p>【2月試験】            2026年3月12日            2026年3月17日            2026年3月31日</p>	1000000円	大学による緊急時の支援制度	<p>【就職指導担当部署】            キャリアセンター            【主な就職支援プログラム】            ・個別面談            ・各種就職情報の提供            【その他】            キャリアセンターでは、特に一人ひとりとの面談を重視しており、職員それぞれが“今”的学生との対話から常により良い支援方法を模索し続けています。</p>

大学名	専攻名	教育内容と方法	受験期間	入学手続き締切日	学生納付金	奨学金制度	就職支援
5 専修大学	文学研究科 歴史学専攻	<p>歴史学専攻は、本専攻が定める修士課程の学位授与の方針を実現するために、教育課程編成・実施の方針を以下のとおり定めます。</p> <p>【教育課程の編成／教育内容・方法】（1）歴史学専攻は、「日本史」「アジア史」「ヨーロッパ／アメリカ史」「アジア考古学」の4領域にわたる科目群と「国際関係史」「イスラーム史」「フランス革命史」「ジェンダー史」の諸領域に関わる科目群を設置し、広い視野から歴史を総合的に把握できるカリキュラムを編成しています。（2）歴史学研究に必要な実証と理論に関する専門知識および技能の修得と世界史的な視野をもつ歴史認識の養成を目的に講義と演習を開講しています。また、学位請求論文の作成にあたっては、複数の教員が指導を行い、適宜報告の機会を設定しています。</p>	<p>【修士課程第Ⅰ期】 2025年10月4日</p> <p>【修士課程第Ⅱ期】 2026年2月21日</p>	<p>修士課程第Ⅰ期 2025年10月14日～21日</p> <p>修士課程第Ⅱ期 2026年3月2日～9日</p>	830000円	<p>大学院学術奨学生（修士） 大学院学術奨学生（博士） 「専修大学私費外国人留学生の学習奨励等のための授業料減免」制度 大学院家計急変奨学生</p>	<p>【就職指導担当部署】 キャリア形成支援課 【主な就職支援プログラム】 学生一人ひとりの顔が見えるきめ細やかな支援を通して、学生の個性と実力を活かす道と共に考え、学生の就職への主体的な決断を支える。 これに基づき、キャリア形成支援課では、就活基礎講座、学内企業説明会、面接対策・攻略セミナーなどの各種就職支援プログラムや就職相談を通して、学生を強力にバックアップしています。</p>
6 国学院大学	文学研究科 史学専攻	博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指導演習を実施する。	<p>【秋季入試】 2025年10月4日、8日</p> <p>【春季入試】 2026年2月13日、19日</p>	<p>【秋季入試】 2025年10月24日</p> <p>2026年3月4日</p> <p>【春季入試】 2026年3月4日</p>	715000円	<p>國學院大學大学院奨学金制度（3研究科共通） 守谷育英奨学金 一般財団法人 MID財団奨学金 中村積善会 紿費奨学金 交通遺児育英会 奨学金 公益財団法人 伏見記念財団令和7年度奨学金</p>	<p>【就職指導担当部署】 キャリアサポート課、教職センター、たまプラーザ事務課、神道研修事務課 【主な就職支援プログラム】 ・個別面談 ・求人情報掲示板 ・各種就職イベントの実施</p>

## 大学院文学研究科 新専攻（歴史文化学専攻／修士課程）進学需要アンケート調査結果

○調査期間：2025年6月30日～7月14日

○アンケート調査対象：文学部4年次生及び3年次生

○調査方法：NishoUNIPA（学修支援システム）によるWebアンケート

○回答者数：4年次生 535名対象 うち219名回答（回答率40.9%）

3年次生 503名対象 うち280名回答（回答率55.6%）

計 1,038名対象 うち499名回答（回答率48.1%）

○備考：実際のWebアンケート画面及びアンケートにファイル添付した歴史文化学専攻（修士課程）の設置構想チラシは当資料の末尾に掲載。

○集計結果：下記のとおり

Q1. 回答に必要な情報1～3（1. 専攻の名称等、2. 歴史文化学専攻（修士課程）設置の理念・養成する人材像、3. 設置場所、アクセス）の確認【回答必須】

	確認した
4年次生	219
3年次生	280

Q2. 回答に必要な情報4～5（4. 学生納付金、5. 競合する大学院の名称）の確認【回答必須】

	確認した
4年次生	219
3年次生	280

Q3. 卒業後の進路をどのように考えていますか（複数選択可）

	大学院進学	就職	その他
4年次生	17	204	14
3年次生	28	261	15

Q4. 前問で「大学院進学」を含んで選択した方に質問です。志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

	国立	公立	私立
4年次生	5	6	16
3年次生	17	7	24

Q 5. 大学を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答可）

	文学	史学	哲學	法学 ・ 政治学	商學 ・ 經濟學	社會學	理學	工學	農學	保健	商船	家政	教育	藝術	その他
4年次生	129	60	38	17	25	26	3	4	3	2	1	5	44	53	43
3年次生	165	70	40	22	30	34	4	5	5	5	2	6	70	66	46

Q 6. 二松学舎大学大学院 文学研究科 歴史文化学専攻（修士課程）が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

	第一志望として受験する	第2志望として受験する	第3志望以降として受験する	受験しない
4年次生	11	2	11	195
3年次生	3	8	17	503

Q 7 前問で、「第一志望として受験する」「第2志望として受験する」「第3志望以降として受験する」のいずれかを選択した方に質問です。

二松学舎大学大学院 文学研究科 歴史文化学専攻（修士課程）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

	入学する	志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合に入学する	入学しない	未回答
4年次生	11	10	2	1
3年次生	5	17	5	1

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

#### クロス集計

	Q 3 で「大学院進学」と回答 Q 4 で「私立」と回答 Q 5 で「文学」又は「史学」と回答 <u>Q 6 で「第一志望として受験」と回答</u> Q 7 で「入学する」と回答	Q 3 で「大学院進学」と回答 Q 4 で「私立」と回答 Q 5 で「文学」又は「史学」と回答 <u>Q 6 で「第2志望として受験」と回答</u> Q 7 で「入学する」と回答	Q 3 で「大学院進学」と回答 Q 4 で「私立」と回答 Q 5 で「文学」又は「史学」と回答 <u>Q 6 で「第3志望以降として受験」と回答</u> Q 7 で「入学する」と回答	計
4年次生	4	1	0	5
3年次生	1	1	0	2

プロダクト共通 ▾ 共通 ▾ 教務 ▾ 履修関連 ▾ 資格・成績 ▾ 学生支援 ▾ UNIPA共通マスタ登録用 ▾ Web申請 ▾ 教室管理 ▾ 履修カルテ ▾ 研究業績 ▾

## アンケート一覧・アンケート作成

アンケート作成 [Bsc003]

前回更新者 小沢 洋之

公開終了

▼ 承認状況

カテゴリ

アンケート

▼ 対象指定

一括指定

学生一括指定

対象学生

大学文学部／3年・4年／在学中・休学中・留学中

×

教員一括指定

指定されていません

職員一括指定

指定されていません

授業指定

指定されていません

業務グループ指定

指定されていません

個別指定

学生指定

指定されていません

教職員指定

指定: 1件

※上記で指定した対象者を、宛先リストに保存します。 

▼ アンケート内容

テンプレートを使う

✓は必須項目です。アンケート名が未入力の場合、自動保存、一時保存は使用できません。

アンケート名  大学院文学研究科 新専攻（歴史文化学専攻／

差出人 大学改革・IR推進課

重要度 重要

 集計結果に回答者氏名を表示タイトル  大学院文学研究科 新専攻（歴史文化学専攻／修士課程）設置構想アンケート

編集

本学では、来年4月に大学院文学研究科の新しい専攻として『歴史文化学専攻』の開設を構想しています。

については文学部3年次生と4年次生を対象に、このことに関するアンケートを実施しますので回答をお願いします。

本学では、このアンケート調査を通して学生の皆さんの考え方をお聞きし、設置計画の基礎資料にするとともに、

さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。

なお、アンケートの回答内容は統計資料としてのみ用います。個人の回答内容が公開されることはありません。

また、歴史文化学専攻の概略を記載したリーフレットを添付しています。そちらもあわせて確認してください。

≡1 【以下の「回答に必要な情報1～5」は、このアンケートの回答のために必要な情報です。すべて確認して「確認した」ボタンにチェックを入れて後に進んでください。】

## 【回答に必要な情報1】

◎専攻の名称等

- ・名 称：二松学舎大学文学研究科歴史文化学専攻（修士課程）
- ・修業年限：2年
- ・定 員：入学定員8名・収容定員16名
- ・授与する学位：修士（歴史文化学）
- ・取得可能な資格：中学・高校教員専修（社会、地理歴）

## 【回答に必要な情報2】

◎文学研究科歴史文化学専攻の設置の理念・養成する人材像

文学研究科修士課程歴史文化学専攻は、東アジア地域を中心とした学術・文化の研究を推進し、その蘊藏を授けて高度な専門的学識を有する教員・職業人の養成を図り、生涯教育の一環としてより豊かな教養の場を社会に提供することを目的とする。

日本を中心とした東アジア諸地域及び西洋の学術・文化・地域間交流にも歴史的視点から関わり、対象とする分野・時代・著述家・作品・言語・資料・事象等について、独自の問題設定を行い、論理的な手続きに即して、創見を提示できる能力を習得させる。卒業後の進路としては、博士後期課程への進学、専門的学識を有する教員・専門的学識を有する職業人等を想定している。

## 【回答に必要な情報3】

◎設置場所・アクセス

- 二松学舎大学 九段キャンパス 東京都千代田区三番町6-16
- ・東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」徒歩8分
  - ・JR総武線、東京メトロ有楽町線・南北線、都営新宿線「市ヶ谷」徒歩15分
  - ・JR総武線、東京メトロ有楽町線・東西線・南北線、都営大江戸線「飯田橋」徒歩15分

 選択必須

回答に必要な情報1～3を確認した

**三2** 【回答に必要な情報4】

◎大学院文学研究科 歴史文化学専攻の学生納付金（初年度納付金）

- ・入学金 250,000円(本学出身者は免除)
- ・授業料 520,000円
- ・施設費 100,000円
- ・その他 11,430円（本学出身者は6,430円）
- ・合計 881,430円（本学出身者は576,430円）

## 【回答に必要な情報5】

◎競合する大学院の名称

- 東洋大学 文学研究科 史学専攻
- 大正大学 文学研究科 史学専攻
- 駒澤大学 人文科学研究科 史学専攻
- 専修大学 文学研究科 歴史学専攻
- 国学院大学 文学研究科 史学専攻

**選択必須**








回答に必要な情報4～5を確認した

**三3** 【ここからアンケートが始まります】

卒業後の進路をどのように考えていますか（複数選択可）








- 大学院進学
- 就職
- その他

**三4** 前問で「大学院進学」を含んで選択した方に質問です。志望する大学院の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）**選択必須**








関連する設問番号 → 3

- 国立
- 公立
- 私立

**三5** 大学を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答可）**選択必須**








- 文学
- 史学
- 哲学
- 法学・政治学
- 商学・経済学
- 社会学
- 理学
- 工学
- 農学
- 保健
- 商船
- 家政
- 教育
- 芸術
- その他

**三6** 二松学舎大学大学院 文学研究科 歴史文化学専攻（修士課程）が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。**選択必須**








- 第1志望として受験する
- 第2志望として受験する
- 第3志望以降として受験する
- 受験しない

≡7

【5】前問で、「第1志望として受験する」「第2志望として受験する」「第3志望以降として受験する」のいずれかを選択した方に質問です。

二松学舎大学大学院 文学研究科 歴史文化学専攻（修士課程）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

必須  回答条件  設問編集  コピー  削除

入学する

志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合に入学する

入学しない

最下部に表示する定型文を入力してください

編集

+ ファイルを添付

▼ アンケート期間

実施期間

2025/06/30 00:00

～

2025/07/14 17:00

集計結果公開期間

回答集計結果を対象者に公開する

▼ 共有設定（このアンケートを共有する場合は、こちらで設定してください。）

業務グループ

選択してください

追加

\*このアンケートをコピー元とするためには、「参照のみ可」「更新も可」のいずれかを選択してください。

業務グループ	職員数	教員数	共有方法
<input type="checkbox"/> 大学改革推進部	9名	0名	<input type="checkbox"/> 参照のみ可 <input checked="" type="checkbox"/> 更新も可

選択した行を削除

○ 確定

(注) 確定を実施するまで設問の情報は反映されません。

\*一時保存する場合、掲示の入力内容を画面に保持するだけで、DBに登録することではありません。

\*アンケート対象者に掲示を配信



修士課程

# 歴史文化学専攻

二松学舎大学大学院 文学研究科

2026(令和8)年  
4月開設予定

※設置構想中

設置計画は予定であり、  
内容が変更になる  
場合があります

公式SNSで最新情報をチェック!

受験生サイト



公式 LINE



公式 Instagram



公式 YouTube



## □ 歴史文化学専攻の概要

名称	大学院文学研究科修士課程 歴史文化学専攻
定員	8名
学位	修士(歴史文化学)
修業年限	2年

入学金・授業料等	入学金: 250,000円 ※本学出身者は無料 授業料: 520,000円 施設費: 100,000円 ※本学出身者は半額 その他: 11,430円 ※本学出身者は6,430円 合 計: 881,430円
----------	--

## □ 設置の目的・養成する人材像

文学研究科修士課程歴史文化学専攻は、日本史・東アジア史・西洋史・思想文化史の研究を基軸に、国内外の歴史資料・文化遺産の多角的分析を通して、社会の発展と課題解決に寄与する人材を育成します。これにより高度な専門的学識を有する教員・職業人の養成を図り、生涯教育の一環としてより豊かな教養の場を社会に提供するとともに、次世代の文化の担い手として、広い国際的視野と深い洞察力を持ち、歴史文化研究の新たな展開を切り拓く人材を輩出することを目指しています。

## □ カリキュラムの特徴

本専攻では、日本・東アジアおよび西洋の歴史や思想文化の研究を推進し、対象とする諸事象について独自の問題設定を行い、論理的な手続きに則して、創見を提示できる能力を習得させます。また、人文学的領域で「より良き社会を実現する目標を持って、グローバルに活動する」ために、国際的な視野により異文化理解を深め、世界の各文化相互のグローバルな影響関係を追究し、さらには共生社会を構築していくために、歴史文化を深くそして豊かに理解することを目的として教育・研究活動を行います。

## □ 開講予定科目

科目区分	科目名	科目区分	科目名
日本歴史 文化学講座	講義 日本歴史文化学講義I～VI	講義	日本文化史特殊講義I・II 古文書学講義IA・IB・IIA・IIB
	演習 日本歴史文化学演習I～VI		日本芸能史講義I・II 中国思想講義①A・①B・②A・②B
東アジア歴史 文化学講座	講義 東アジア歴史文化学講義I～IV	日本史料学講義I・II	日本史料学講義I・II
	演習 東アジア歴史文化学演習I～IV		日本文化史特殊演習I・II 古文書学演習IA・IB・IIA・IIB
西洋歴史 文化学講座	講義 西洋歴史文化学講義I～IV	演習	日本芸能史演習I・II 中国思想演習①A・①B・②A・②B
	演習 西洋歴史文化学演習I～IV		日本史料科学演習I・II

## □ 専修免許について

中学校または高等学校教諭一種免許状を有している学生で、本大学院文学研究科（修士課程）において、有する免許状と同校種・同教科の所定の科目の単位を修得し、修士の学位を取得した学生は、専修免許状を取得することができます。

### ○ 取得できる教員免許状

（専修免許状取得のためには専修免許状と同校種・同教科の一種免許状を有していることが必要です。）

専攻	中学校教諭 専修免許状	高等学校教諭 専修免許状
歴史文化学専攻	○*	○*

\* 教職課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

## □ 目指す進路等

修了後の進路としては、博士後期課程への進学、専門的学識を有する教員、専門的学識を有する職業人等を想定しています。本専攻では、歴史資料や文化遺産の分析から地域文化研究といった関連分野を横断するカリキュラムを整備しており、歴史教育・文化行政などの分野で活躍できる人材の育成を視野に入れ、教育機関のみならず、文化財保護にかかる各種機関や博物館・文書館などの文化機関においても活躍できる知識とスキルを身につけます。

## □ 奨学金制度

修士課程の学生を対象に、年間授業料の半額相当額を免除する奨学金制度を設けています。1年次の春学期の成績により決定し、年度末の資格継続審査で条件を満たすことで次年度も減免措置が継続され、最大2年間の減免措置が適用されます。

## □ 研究活動支援制度

文学研究科では、有為な研究者育成に資することを目的に、研究活動の支援制度を設けています。

### 学会参加交通費支援

1人につき当該年度1回に限り  
**50,000円を上限として支給**

### 論文掲載料・投稿料支援

1人につき当該年度1回に限り  
**10,000円を上限として支給**

### 画像・図版引用料支援

1人につき当該年度1回に限り  
**10,000円を上限として支給**

### 博士論文出版支援

1人につき1回に限り  
**200,000円を上限として支給**